六冊懸

徳用草紙

下

上・中

通油町

屋板

特別
入13
3599

五大力三畫仮訓讀序

禍福大門なし只人の招く所に通ひ来る日本堤も唐天竺を遠からず至て古人訥子が名を止む五人切粉のゑも煙草さる手國府も上州館ものきせるや浮世草まくらぬ筆の長烟管吸つけて出る格子先洒落なんとかが身まことく口と中ちの雪と是黒附乃千五張ちと珍らしく老實まで綴てね

壬戌春帝端月

著作堂馬琴述

賣切申候切落咄序

夫まもるにも雛し勘平が二つ玉武勇ぢ太閤村して祝ひはちかるの三郎が空鉄炮は五斗兵衛が宮耳と云戯作者乃わそげぞくもるかな伏ゑの目紙覚ては明けは鳥の乞目ゆる今役を翻るす事とるれる宿併の屬し噤やは合はせの心やうまらが佛の方便あは嘘ハ公乃の忘語戒破つく携てその后へ紙屑籍てつくもまくよ

壬戌正月　曲亭子

特
門 へ 13
號 3599
巻

昭和三十六年
九月十三日
購求

六冊櫛徳用草紙

のよみよう

五大力の上の巻

切落とされし上の巻

有銭本位
可同
自況
昼世間
財

尚壽
糀屋

五大力丸中の巻

切腹咄の中ばなし

源

そこねはこの
あるかてたの
くらそうこ
ありたきこの
てぶらくこの
そちさけどん
やのまくさき
かりまさけの
ゆわひをこの
こくりくこを
つしきこうぶれ
ずへこうこぐ
とあるくしの
のんでるあを
ぜんとよたつて
こらさけれをく
よとさらさくぐ
と言せぶい
それはそれのの
らあらあの

さけしきまり
くこうこれき
のんれあけと
しさ酒どきい
てこそそうたを
ちくくうしせんと
ちこそうんちあ
やまつてこれと
こうこてしか
れ見返それ
はありがこよぐん
ドまはちて
それはあのこ
まつこきあはせ
ぐろよおくこたを
をでも上ぐくは
かこももよのお
ぬかををハをて
ふはれわ見返よ
こんをこはのをを
をまをう上見
りまんぐのよ
ころあくばよ
このうはをぬ
らわといろぬ

源

切落咄の下の巻

数
数

五大力
人心反覆

是五大力　除一漆土
爲五人切　更點四口
終吾巽加　因果始休
加二口日　忽来吾賀

曲亭馬琴作